

最澄入寂後、天長元年（824）に最澄の高弟の義真（ぎしん 781－833）によって創建される。当初は戒壇受戒の際の勅使の宿所などとして用いられた戒壇院の付属建物であった。後には、僧侶の学問研鑽のための道場として発展した。良源（りょうげん 912－985）がはじめた「法華大会広学堅義（ほっけだいえこうがくりゅうぎ）」や、最澄がはじめた「天台会法華十講（てんだいえほっけじゅっこう）」が行われている。また、「涅槃会（ねはんえ）」や「伝教大師御影供（でんぎょうだいしみえく）」などの論議法要も行われる。現在もここで四年に一度、一人前の天台僧になるための重要な儀式である「法華大会広学堅義」が行われている。

本尊は最高仏として信仰されている大日如来。比叡山は天台教学に加え、禅、念仏、密教と四つの教えを学ぶ、四宗兼学の修行道場である。密教は「秘密の教え」による儀式と瞑想を通じて修行者に悟りと地上の樂園への道を示すものである。大講堂内にはこの比叡山で修学修行にはげみ新たな宗派を開いた、各宗の宗祖像が祀られている。比叡山が日本仏教の母山とよばれるゆえんでもある。

新たな宗派とその宗祖

円珍（えんちん 814－891） 天台寺門宗の宗祖

良忍（りょうにん 1072－1132） 融通念仏宗の宗祖

法然（ほうねん 1133－1212） 浄土宗の宗祖

栄西（えいさい 1141－1215） 臨済宗の宗祖

親鸞（しんらん 1173－1262） 浄土真宗の宗祖

道元（どうげん 1200－1253） 曹洞宗の宗祖

日蓮（にちれん 1222－1282） 日蓮宗の宗祖

一遍（いっぺん 1239－1289） 時宗の宗祖

真盛（しんせい 1443－1495） 天台真盛宗の宗祖